



みやぎ教育の日推進協議会
令和3年度 みやぎ教育の日推進大会

講演録

2021年11月1日(月)
ホテル白萩(中止)

“すきとほったほんたうのたべもの”を求めて

ほりごめ かおる
堀米 薫

福島県生まれ。岩手大学大学院農学研究科修了。宮城県角田市で専業農家（水稲・山林・和牛肥育）の主婦をつとめるかたわら、農業や自然をテーマに児童文学作品やエッセイを書き続けている。日本児童文芸家協会会員。「季節風」「青おに童話の会」同人。

令和二年度みやぎ教育の日推進大会

講演

“すきとほったほんたうのたべもの”を求めて

堀米 薫

二〇二二年十一月一日
於 ホテル白萩（中止）

自己紹介

こんにちは。堀米薫と申します。福島市の出身で、宮城県人になって三十年以上となりました。

現在は、角田市で農業（水稲三ヘクターと和牛二百頭飼育）と林業の傍ら、読み聞かせサークル活動、角田市教育委員などを経て、十二年前から児童文学作家として活動しています。これまで、出版した単行本は、二〇二一年現在で二十二冊になりました。裏表紙に一覧がございますが、どれか、読んでいただいた本はありませんでしょうか？
さて、皆様は、一年に何冊の本を読んでいますか？
子どもや孫に、本を買って与える

ことはあるでしょうか？

私の両親は教員でした。中学校の理科教諭だった父が読書家で、実家の壁は一面が本棚になっていました。子どもの頃は、毎月一冊配本を利用して、本を買って与えてもらいました。毎日夜八時になるとテレビを消し、一時間、家族で本を読んでいたものです。冒険物語に心躍らせ、悲しい物語に涙を流し、新しい知識を得る喜びに浸る、実に楽しい時間でした。本を読むのが大好きになり、今でも、本屋さんや図書館に行くと、心が安らぎます。

大学は農学部に進学したため、本格的に文学の勉強をしたことがありません。今、こうして、作家をしているのも、子どもの頃にたくさん本を読んだおかげかなあと思っています。

作家になる前は、子育ての合間に、短い文章を書いて新聞に投稿したり、エッセイコンクールに応募したりすることを楽しみにしていました。入賞すると、表彰式で、審査員の先生に会えるのが何よりの喜びでした。「魔女の宅急便」で有名な角野栄子さんは、透き通るように上品な方で、あんな風に年を重ねたい！と思いました。作家の藤本義一さんには、「あなたは、どうも、本を読む量が足りないようだね」とお言葉をいただきました、それからはもう、必死で本を読みました。第一線で活躍される方に出会うことが出来る、貴重なチャンスでもあったのです。

作家の仲間聞いてみると、子どものころから作家になりたいという夢を持っていたという人が少なくありません。でも、私には、作家になりたいという夢は全くありませんでした。興味があるのは科学分野でしたし、文学の勉強もしたことがなかったのです。本にするほどの長い文章を、どうやって書いたらいいかわからなかったのです。ちなみに、中学年向けの本ですと、原稿用紙で七〇〜百枚程度です。

く日々で満足していましたが、十五年ほど前に転機が訪れます。たまたま、投稿仲間に紹介してもらった同人誌をきっかけに、児童文学界の重鎮だった後藤竜二さんに出会いました。後藤さんの作品、「天使で大地はいっぱいだ」や、全国課題図書にもなった「紅玉」を読まれた方はいらっしゃるでしょうか。後藤さんに、短い作品を何度か読んでいただくうちに、突然、「あんた、作家になれ」といわれたのです。夢のような話に、ただただびっくりしました。それでも、「大作家の後藤さんがそういうのなら、がんばらなければいけないのかな」と思ったのが、作家になつたきっかけです。

それからは、児童書をたくさん読むことで、文章の書き方を独学で勉強し、十二年前に運よくデビューできました。とはいえ、書かずにいられないことをただひたすら書くというスタイルは、今も変わっていないようです。

では、私の著作の中から五冊をとりあげ、お話をさせていたただきたいと思います。

書きたいことを気の向くままに書

チョコレートと青い空

私の家には、JICAや農業団体を通して、世界中から研修生やホームステイのゲストがやってきました。中国、中央アジア、アフリカ、オセアニア、北アメリカ、南アメリカなど、数えてみたら二十七か国にいながら世界旅行はできるといふことですね。

その中で忘れられないのが、アフリカ、ガーナから来たクリスさんで



した。

ガーナといえど、そう、チョコレートがパツと頭に浮かびますよね。「ガーナは、チョコレートが食べ放題なんですよ」

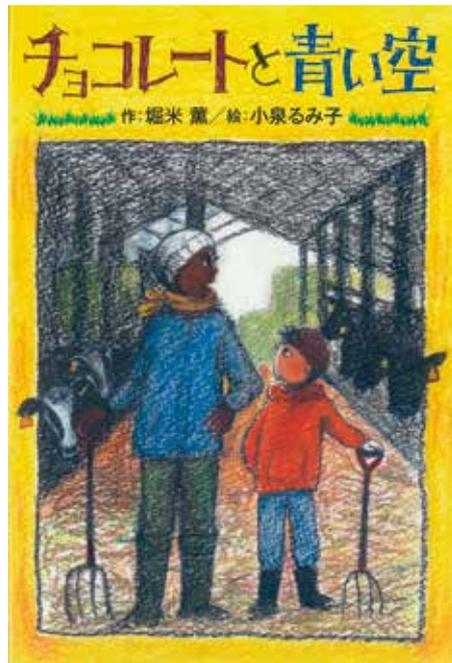
何気なく話しかけた時、クリスさんは戸惑った顔をしました。返ってきた言葉は、「いいえ、大人になるまで、チョコレートを食べたことはありません」でした。

調べてみると、当時は、カカオの実を取るための児童労働が問題になっていました。児童労働とは、学校へも行かずに、子どもたちが働かされている状態を言います。しかも、大きな鉋でカカオの実を割るなど、危険な作業を伴っていることも多いのです。

さらに、現在に至るまで、賃金はおどろくほど安いのです。たとえば、チョコレート一枚が百円だとしたら、賃金はわずか約七円程度。他は、小売業者やメーカーの利益です。私たちが安くておいしいチョコレートを食べている背後に、そんな問題があったなんて……。私は、そ

れを知って、とてもショックを受けました。「知らない」ということは、なんておそろしいのだろうと感じたのです。

さらに調べるうちに、「フェアトレード」という言葉も知りました。「フェアトレード」とは「公正な貿易」という意味です。生産者に適正



「チョコレートと青い空」 堀米薫作 そうえん社

もあるのではないだろうか？ と。

そこで、この時の体験をもとに、小学四年生の男の子と、農業研修にやって来たガーナ人青年との交流を描いた物語を書いたのです。

本のテーマは、「無関心は敵」「公正」「家族愛」「誇り」としました。「家族愛」も「誇り」も、これまで出会った研修生たちの言葉が、もともとなっていました。

どの研修生たちも、「私は家族を愛しています。自分の国を誇りに思っています。そのために、働きたいのです」と、口をそろえて言いました。その言葉を前に、「果たして自分は、同じように言えるだろうか」と、つくづく考えさせられたからです。

「チョコレートと青い空」は、二〇一二年の全国青少年感想文コンクール課題図書になった他、故郷の福島県の高校入試の問題にも使用されるなど、多くの子どもたちに読んでもらうことができました。

この本には、さらに素敵な出来事がありました。

出版から一年後、「英訳して、ガーナで出版したい」と、駐ガーナ大使夫人からメールが届いたのです。もちろん、喜んでOKしました。英訳本を作るにあたっては、はるか遠いアフリカの地であるガーナの子どもたちに、日本の風土を理解してもらおうと、文中に出てくる日本の布団やこたつ、おでんや餅、角田市の風景や棚田の写真を撮ってガーナに送りました。二〇一四年に、「chocolate & the blue sky」という本として出版されたのです。

さらに、大使夫人からは、「出版記念会をするので、ガーナに来ませんか？」というお誘いのメールが届きました。

当時はまだ、汚染稲わら問題で牛の価格低迷が続くなど、大震災後の影響が色濃く残り、我が家も経済的にもとても苦しい時期でした。それでも、「こんな機会は二度とないから行ってこい」と夫に背中を押され、ガーナへと旅立ったのです。

皆様の中で、ガーナまで行かれた方はいらっしゃるでしょうか？

これはもう、とつても速いです！ドバイ経由の最短コースでも、飛行機に二十四時間乗り続け、やっと首

都アクラに着きました。ガーナでは、大使夫人と一緒にいくつかの小学校を訪問して、本を読み聞かせした他、クリスさんと、十三年ぶりの再会を果たすことが出来ました。出版記念会には、副大統領夫人や各国の駐ガーナ大使が出席された他、ガーナで働く日本人の方々とも会うことが出来ました。遠いアフリカで日本のために働いてくださる方がいるおかげで、私たちの暮らしが助けられていることも実感できました。

ガーナに行ってみて、驚いたことがいくつもありました。一つは書店がないことです。首都アクラにさえ、一件しかないのです。日本の何と恵まれていることでしょうか。英訳本は寄付を募り、ガーナ各地の小中学校へ届けることができました。

二つめは、頻繁に停電が発生することです。ということは、工場のラインが成立しないということですね。経済にも大きな影響があるはずです。電気が常に使えることのありがたみを感じました。

三つめは、空港などで「ニイハオ」とよびかけられることです。当時から話題になっていた、中国のアフリカ進出を、肌で感じて帰ってきました

た。これまで、日本はガーナに多額の援助をしてきたにもかかわらず、かすんでしまいそうな勢いです。ガーナの人々の日本への理解の一助にと、大使夫人が私の本を英訳してくださったわけも、理解できました。本からちょっとそれますが、世界中からやって来たゲストのことで、他にも、印象に残っていることを紹介しますね。

よく、「外国の方をホームステイで引き受けると、料理が大変でしょう？」と言われます。正直、初めのころは、どんな料理がいいか悩みました。ある時、「料理を作ってあげるだけでなく、作ってもらうのはどうだろう」と、思い立ったのです。スウェーデンの男性にお願いすると、二つ返事で、伝統のミートボールを作ってくれました。これがとってもおいしかったのです！舌鼓をうちながら、「なるほど、スウェーデンは男女共同参画社会だから、男性も料理が得意なんだなあ」と、料理の腕前からお国柄を理解できました。

アフリカのガンビアから来た男性は、鶏肉と野菜をピーナツバターとコンソメで煮込んだ料理を作ってくれました。調べると、ガンビアは、落花

生栽培が盛んなのです。料理で深まる国際理解です。

こうした体験を通して、「自分の国の伝統料理を作ることができるとして、ケンタッキー味のフライドチキンを作っても尊敬されないよ。私たち日本人も、伝統料理を子どもたちにきちんと伝えることが、一層大事になるかもしれない」としみじみ感じたのです。

ホームステイの受け入れに関しては、「外国の人とどうやって会話するの？」とも、よく聞かれました。これには、中学校の教科書が最強でした。中学校英語が話せれば、日常会話はOKなのです。日本の教育システムのすばらしさを痛感しました。一方、英語が全く話せないゲストもいました。コロンビアから来た女性は、スペイン語しか話さないのです。それでも、身振り手振りに、絵をかきながら、しゃべり続ける様子を見て、「これもありだな！」と思いました。なんとかコミュニケーションを取ろうという気持ちがあるんですね。そして、これからのグローバル社会では、英語が話せるだけでなく、自分の国の歴史や文化を

どれだけ理解しているかという、「教養」が一層問われるんだな、と痛感したのでした。

次は、我が家の家業の一つでもある、林業のお話をさせてくださいね。

林業少年

我が家は、山林を所有しています。私が嫁に来た頃は、馬で山から木を出す馬搬や木こりさんが、よく出入りしていました。

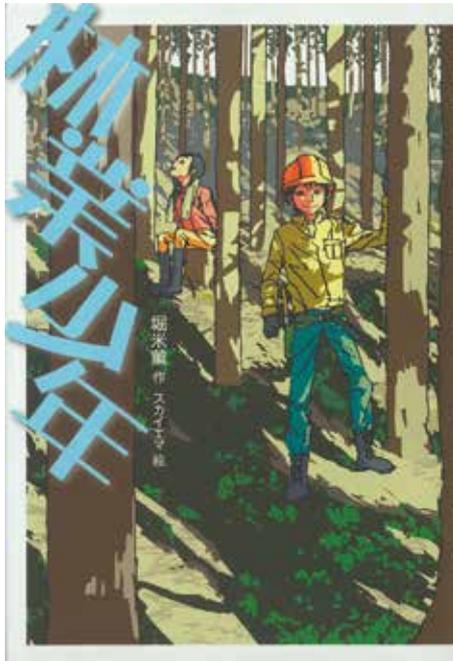
皆様の中で、林業に関心のある方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。スギ花粉症で迷惑だなとか、豪雨で土砂崩れが起きるのは山が荒れたかららしい、といった感じでしょうか。児童書の世界では、林業を扱ったものはほとんどありませんでした。ならば書いてみようと思っただけの本です。

まず、あらすじをお話ししますね。

主人公は、両親がサラリーマンの兼業農林家で、高二の楓と小五の喜樹の姉弟です。採算の取れない山に年金をつぎ込む祖父は、家族の中でも日の当たらない存在でした。外で働く父も母も、採算の取れない林業に積極的ではなかったからです。ある

日、祖父のもとに、直接交渉して値段を決める「相対取引」のお客が来たことで、一家に変化が訪れます。

喜樹をはじめ、一家がそろう百年杉の伐採を見届けることになりました。喜樹は木こりたちから、「栗は土台に、山桜は上がり框に使うといいぞ」などと、木についての知識をさずけられます。また、百年先を見



「林業少年」 堀米薫作 新日本出版社

読み終えた時に、皆様の目に映る山が、今までとちよつと違って見えたらしいです。

本を読む前と読んだ後で、世界が変化したように感じる体験は、ありませんか？ 私は、よくそんな体験をします。読書のだいたい味の一つです。

ここで、読書の魅力についても、

ちよつとお話し

させてください。

本の中では、主人公が困難を乗り越える時、読者もいつしよに、困難を乗り越えることができ、ゲームでも同じ体験はできる、という人もいます。

据えて木の苗を植えることも知り、山を見る目が変わっていきます。やがて、母親の希望に沿って英文科を受験するはずだった楓が、突然農学部に進むと言い出し、一家に大波乱がまきおこるのです。

どんな結末を迎えるかは、ぜひ本をお読みいただければと思います。

読書には時間がかかります。簡単に理解できるアニメや動画の方が正しいって楽ですが、簡単に手に入れたものほど、手放すのも早いですよね。物語がゆつくりとしみこんでいくための時間が、私たちの心を鍛え、豊かに耕してくれるような気がいたします。

この本は、二〇一四年に埼玉県で、二〇一五年に宮城県で、高校入試問題に使用していただきました。

宮城県の高校入試問題に使用していただいたことは、入試翌日の河北新報を開いて知ったのですが、驚くと同時に、地元民としてとてもうれしかったです。

次は、歴史物語のお話をさせていただきますね。

仙台真田氏物語

〜幸村の遺志を守った娘、阿梅

この物語は、蔵王町の教育長さんからいただいた「仙台真田物語」というパンフレットがきっかけで書いた本です。

真田幸村の娘、阿梅が、白石の片倉小十郎に嫁いだことは、渡辺謙主演の大河ドラマ「独眼竜政宗」にも、

その場面が出てきますね。でも、他の娘たちや息子までも、伊達家にかくまわれていたことは、ご存じでしょうか？

真田幸村は、徳川を何度も痛めつけたことで有名です。関ヶ原に向かう秀忠と闘い戦には勝ちますが、敗軍となり九度山へ蟄居させられてしまいます。その九度山で生まれたのが、阿梅です。幸村には、大助と大八の男子の他に、阿梅を含め十人の子どもがいたといわれています。ぜひぶん、子沢山だったようですね。

九度山の暮らしは、徳川方についてた兄から援助は受けていたものの、裕福とは言えないものでした。阿梅が十一才の時、大坂の陣が始まり、阿梅も、幸村とともに大坂城に入城したといわれています。冬の陣では、真田丸での戦いで名を上げた幸村ですが、夏の陣では苦戦を強いられます。道明寺の戦いで、伊達軍との先鋒、鬼小十郎と激突するのです。それぞれに多数の戦死者をだし、兵を引き上げたその夜、何と幸村は、小十郎のもとに阿梅を送り、子どもたちの保護を依頼します。

さっきまで激しく闘った敵から、突然、自分の子どもたちを頼むと書

状が来たのですから、鬼小十郎もさぞかし驚いたことでしょう。敵の陣中にたった一人送られた、阿梅の心にはいかばかりだったのか？ 鬼小十郎と政宗は、阿梅を引き受けることを決めるのですが、なぜそんな決断をしたのでしょうか。へたをしたら、敵と通じていると疑いをかけられる可能性もありますよね。実際、政宗



「仙台真田氏物語」 堀米薫作 くもん出版

妹三人、次男の大八を白石でかくまうことにします。

敵將の男子をかくまえば、リスクはさらに大きかったはずですが。大八は、片倉守信と名前を変えて仙台藩士となり、その血筋は片倉家の親せき筋として、幕末まで仙台藩のために尽くしたといわれています。鬼小十郎との間に子供がなかったため、

は家康から警戒されていたようで、この戦いのさなかに、伊達軍が味方に攻撃を仕掛けたとしたとして、問題も起きています。やはり、幸村の遺児を利用して天下取りを狙っていたのか？ 政宗の野望と絡めて想像を膨らませると、面白いですね！

最終的に、政宗は、阿梅の他に、

くまで生きた阿梅は、景綱の活躍もすっかりと見届けたはずですよ。ぜひ、本書で楽しんでいただければと思います。

小十郎の前妻の子が生んだ景綱を、養子に迎えて育てあげます。その景綱は、後の伊達騒動（伊達家のお家騒動）の際に、謀反軍を押しさえて伊達家を救ったといわれています。八十歳近

「優」の字には、優しい（やさしい）のほかにも、意味がありますね。そう、優れる（すぐれる）です。「走れ、メロス」や「斜陽」で有名な、作家の太宰治が、こんなことを言っています。

「優しいとは、人の悲しみを知ること。優しく人の悲しみを知る人が、優れた人といえるのではないだろうか。勉強ができることは素晴らしい。でも、それだけではないことを、私たちは感覚的に知っているのではないだろうか」と。

そういえば、今、「鬼滅の刃」というアニメがブームになっています。ご覧になった方もいらっしゃるでしょうか。妹を助けるために鬼と全力で戦う主人公は、倒した鬼の最後にも哀れを感じ、涙してしまいうような優しさを持っています。もしかしたら、あのアニメに流れているテーマも、「義」人としてなすべきことと「仁」優しさ」なのではないかしら。だからこそ、多くの人を引き付けているような気がしてならないのですが、いかがでしょうか。

「仙台真田氏物語」は、歴史ものですが、あくまでも児童書として書いています。皆様は、児童書は、「子

ども向けの簡単な物語」というイメージをお持ちでしょうか。でも、実はとっても奥行きが深いんですよ。大人の小説は大人しか読めませんが、児童書は、大人と子供が一緒に読み、共有できます。そして、人間に関わる深いテーマについて、わかりやすい言葉で書いてあります。わかりやすく書くというのがポイントで、たとえ芥川賞作家でも、児童書を書くことは難しいと言われていたほどなんですよ。

ぜひ大人の方にも、児童書の魅力を味わっていただけたらと思います。この本でも、なぜ、政宗が幸村の子どもをかくまったのかについて、親子で意見をかわしたり、いっしょに地元を調べてみると、いろいろ楽しんでいただきたいと願っています。余談ですが、なぜか、大人の男性で「仙台真田氏物語」を読んで泣きましたという方、多いですよ。さて、次は、またまた我が家の家業の一つ、稲作のお話をしたいと思います。

この本を書くことになったのにも、きっかけがあります。春に、東京に行った時のことです。「田んぼの仕事で忙しいでしょう？」と問われ「はい、やっと、種まきが終わったところです」と返したら、「え？ 何の種をまくんですか？」とびっくりされて、「はあ？」と、こちらもびっくり仰天したことがあったのです。皆様なら、何の種をまいたかは、おわかりですよ。考えてみたら、学校で稲作体験といつても、田植えと稲刈りの二回という所が多いですよ。そのせいなのか、種をまいて苗を育てることを知らない人がいることに、「これは、まずいのではないかな」と感じたのです。

めぐり☆サイエンスクラブ
三巻シリーズ
「春」「夏」「秋と冬」

さらに、イベルメクチンでノーベル賞を受賞した、大村博士の言葉にも触発されました。普通、ノーベル賞を取るような学者なら、小さい時から勉強をたくさんしていたイメージがあります。でも、大村博士は農

家の長男坊で、子どもの頃は農作業の手伝いばかりだったそうです。大村先生はこう言っています。「農業は科学であり、農家は科学者です」と。それを聞いた時、「そうなんです！ 大村先生、よくぞ言ってくれました！」と、飛び上がりそうなおほれしくなったのです。皆様は、農家は科学者だと聞いて、納得できませんか？

では、あらすじを紹介しましょう。物語は、小学五年生の男の子が、ひよんなことから科学クラブに入ったから、農業を体験しながら科学を学んでいく農業クラブだった、という筋立てになっています。

農業クラブの先生は、農家のおばあさんとおじいさんです。でも、これは絶対あり得ると思うんですよ。だって、農家は科学者なんですから。たとえば、「空を読む」という言葉をご存じですか？ 農家は常に自

然を観察しているのです、雲の形や空気の流れから、天気の変わり目がかかるのです。今は、スマホで何でも調べられる時代ですが、自分の体でわかるってすごいことですよ。それに、スマホや電気がなくなったら、私たちはいったいどうするんでしょう。結局、自分の身についたものこそが一番信じられるような気がします。



「めぐり☆サイエンスクラブ 春」 堀米薫作 新日本出版社

種まきのシーンをいれました。我が家も毎年、苗箱で六百枚まいていました。子どもが手伝っていた頃、「永遠に終わらない感じがする……」とこぼしていたのを時々思い出します。でも、そんな風に、収穫を目指してこつこつと積み上げる作業が、

「春」には、しっかりと、種まきのシーンをいれました。我が家も毎年、苗箱で六百枚まいていました。子どもが手伝っていた頃、「永遠に終わらない感じがする……」とこぼしていたのを時々思い出します。でも、そんな風に、収穫を目指してこつこつと積み上げる作業が、

私たちの生活を支え、心を鍛えてくれるような気がするのです。簡単に手に入ったものほど、簡単になくなってしまうのですよね。

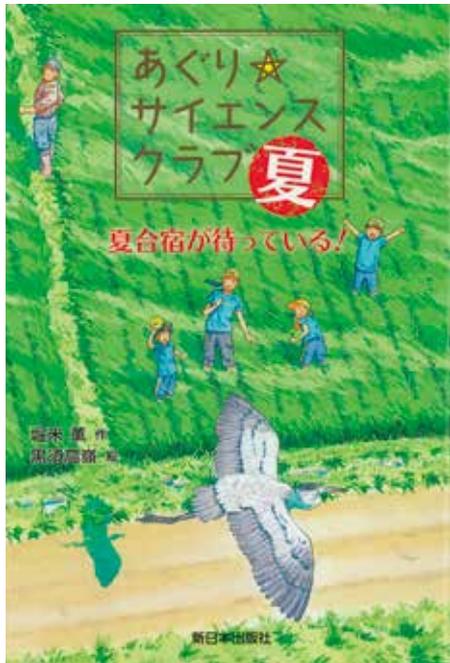
ありがたいことに、「春」は、神奈川県と岩手県の高校入試問題に使用していただきました。こんなふうな、入試問題に採用していただける機会が多いということは、「子どもたちに読ませてもらいたい」と思っていただけなのかなあと、うれしく感じています。

「春」の巻が出た後、「続編は秋ですか?」とよく聞かれました。

いいえ、皆様はよくご存じですね。草取りや中干し、稲の花が咲く夏が、とても重要なのです。でも、現実には、子どもたちに夏の田んぼを体験してもら

える機会が少ないのが残念です。

「夏」篇には、私の大好きな言葉を入れまし
た。「青田風、青田波、青田道」です。俳句の季語にもなっているの



「あぐり☆サイエンスクラブ 夏」 稲米薫作 新日本出版社

存じの方も多いのではないのでしょうか。穂が出る前の青々とした田の上を吹き渡るすがすがしい風、まるで波のように揺れる稲の青葉、そして、青田の間を歩む道。とても美しい言葉ですね。子どもたちにも、ぜひ覚えてほしいなと思いました。この言葉を知ること、「ああ、今、青田風が吹いている。美しいなあ!」と、夏の田んぼを見る目が変わったらしいです。

そういえば、正岡子規の句に、「日本の国ありがたき 青田哉」があります。草原の多い満州から日本へ戻った子規が、青田を前に読んだ句です。この句には、どんな心情が込められているのでしょうか。未来の食料に結びつく、命の輝きへの賛歌の

ような気がします。

「夏」の巻には、主人公たちが、田の草取りをする場面も出てきます。皆様の中には、子どもの時に昔経験したという方もいらっしゃると思います。私は、嫁に来たばかりの時に、生まれて初めて田の草取りをしました。実際にやってみてびっくり。草を引き抜くの力はいるし、泥に足を取られるし、背中は大陽でじりじり焼けそうだし……!

わずかな面積なのに、そのあと数日は、頭痛と筋肉痛で寝込みました。「ここまでしないと、お米は口に入らないんだなあ」と骨身にしまった瞬間でした。もちろん、そんな体験をして得た新米は、今まで食べたどのお米よりも、おいしいお米でした。夏の田んぼは、夏休みの自由研究にも、是非お勧めしたいです。

さて、ここでクイズです。
稲の花が咲くと、ぐんぐん生育するので、水が必要になります。田んぼに水を入れますが、なんという名前でしょうか?

- 1.. 田入れ水
 - 2.. 花水
 - 3.. 掛け水
- 答えは、本で確かめてください

ね。(ごめんなさい!)

三巻の「秋と冬」その先に。」では、いよいよ、あぐり☆サイエンスクラブも収穫の時を迎え、主人公たちは、稲刈りを体験します。

一般の学校田ではそこで、いったん体験も終了でしょうか。でも、あぐり☆サイエンスクラブは、まだまだ学習が続きます。

この巻には、私の住む地域の風習「農始め」をいれました。正月の終わりに、神棚の松(オガマツ)を下げ、田んぼに供え、鍬で土を耕し、田の神様にその年の安全と収穫を祈るのです。

農業をしていると、「よい実りがありますように」「台風が来ませんように」などと、祈ることばかりです。どんなにAIが発達しても、自然にはかなわないのです。

祈りは、子育てでも同じですね。「どうか、無事に育ってくれますように」「大変な目に合いませんように」。祈り続けること、じつくりと時間をかけること。農業と子育てはとても近いところにあるような気がします。もしかしたら、教育もまた、祈りとともにあるのでしょうか。では、もう一つクイズです。

稲刈りが終わった田んぼは、冬になると土がごろごろしていて、何もない風景が広がりますね。でも、何も無い風景ではないのです。指で土をつまんだとします。そのひとつまみの中に、細菌やカビなどの微生物が、どのくらい含まれているでしょう？ いきなりそんなことを聞かれても想像が付きませんよね。直感でお答えくださいね。

- 1…一万
- 2…一億
- 3…十億

というメッセージを込めました。ある日テレビを見ていたら、稲作を再開したことで、飯館村の農家の方がインタビューを受けていました。飯館村は放射能汚染が深刻で、稲作をあきらめる人も多い状態でした。記者が「なぜ、この土地で、再び田んぼをやるんですか？」と問いかけました。だれでもそう思いますよね。すると農家の方は、「だってな、田んぼはたすきなんだよ」といったのです。静かな口調ながら、万感の思いのこもった声でした。私はそれを聞いて、涙があふれてしまいました。農家の方の思いに、心を強く揺さぶられたからです。



「あぐり☆サイエンスクラブ 秋と冬、その先に」
堀米薫作 新日本出版社

あふれてしま
いました。農
家の方の思い
に、心を強く
揺さぶられた
からです。
どの田んぼ
も、子どもた
ちの暮らしが
少しでも良く
なるようにと

これも、ぜひ本で確かめていただければ幸いです。多分、冬枯れの田んぼを見る目が変わると思いますよ。三巻の最後に、「田んぼはたすき」

願いながら、先人たちが苦勞して作りあげてきたものですよね。そんな思いがこもった田んぼで、おなかをみたし、育ててもらったならば、簡

単に捨て去ることなんて、できないはずですよ。

先人からたすきを受け取ってきたように、私たちにも、次の世代へ、何かしら手渡したいという願いがあるのではないのでしょうか。

私は農家なので、田んぼをたすきとして、次の世代に渡したいと考えています。同時に、作家として、自分がこれまで感じてきたことや体験したことを物語にして、たすきを手渡したいと考えています。

手渡すものは、人それぞれですよ。皆様なら、何を手渡すでしょうか？ では、最後に紹介する本は、ノンフィクションです。

命のバトン
津波を生き抜いた
奇跡の牛の物語

今まで紹介してきた本は、フィクションと違って、想像して作り上げた架空の物語です。ノンフィクションとは、事実そのものを書いた本です。

今年、東日本大震災発生から十年の年でした。皆様は、あの日、あの時、どこで

何をされていたでしょうか。それぞれに大変な経験をされながら、現在にいたっていることとお察しいたします。

私は、あの日、名取市のショッピングモールにいました。目の前に出口があるのに、激しい揺れのために一歩も進むことが出来ないという状態でした。やっと外に出た瞬間、ぱつと頭に浮かんだのは、スマートラ沖の津波の映像です。ショッピングモールは海に近く、「ここまで、あんな津波が来るかもしれないぞ」と直感したのです。

あわてて車で四号線に出ると、停車で信号が停止しているのですが、みんな、会釈をしながら整然と通行していました。ハンドルを握る手はブルブルと震えているのに、「日本は教育がきちんとしているんだなあ。教育って本当に大事なんだなあ」と、頭のどこかが、妙に冷静だったことを覚えています。

カーラジオでは、十メートルの津波が来るとアナウンスしています。いったいどうなってしまうのだろうか、想像すらできませんでしたが、尋常ではない揺れ方に、きつと津波は来るといふ危機感だけはありまし

た。沿岸部がどうなってしまうのだからと、想像するのも恐ろしかったです。

家に戻ってみると、牛舎は無事だったものの、餌の補給が断たれ、牛たちの命もぎりぎりまで追い詰められていきました。

そんなある日、新聞を見ていたら、「宮城農業高校の牛が奇跡的に生きていた」という記事が目飛び込んできたのです。宮城農業高校は、私のいたショッピングモールのすぐ近くにありました。高校は、二階近くまで津波に飲み込まれていました。「牛たちがあの状況で生き抜くことが出来たなんて」と驚くとともに、希望の光を見たような気持ちになりました。当時、沢山の家畜が、津波

や寒さ、飢えで命を落としていったことを耳にし、胸を痛めていたからです。

希望を感じると同時に、「この震災を、何とかして子どもたちに伝えていかなければ！」という気持ちで芽生えました。大災害や困難の時に、人が何を考え、どう行動したのかを知ることが、これからの時代を生き抜く上で絶対に必要になる、と思ったのです。

地震発生の三か月後から、牛たちを救った、宮城農業高校の二人の先生にお会いして取材を進めていきました。お話を伺うと、先生方は、津波が迫る中牛舎に駆けつけ、必死で牛たちの鎖を解いて逃げたそうです。「なぜ、そんな行動ができたのですか？」と問

うと、「私にとつて、牛も生徒も同じなんですよ」という答えが返ってきました。牛飼いとして、「わかりますとも！ 私にとつても、牛は家族同然ですか

ら」と、思わずうなずいた言葉でした。宮城農業高校は、津波被害で校舎が使えなくなりましたが、生徒たちは、奇跡的に助かった牛たちとともに、その年の共進会に出場し、見事入賞を果たすことが出来ました。そして、助かった牛からは牛が生まれ、その子牛も母牛となつて、命のバトンをつないでいくことが出来たのです。先生方の思いが、牛たちの命、そして、生徒たちの心へと、つながれていったのですね。

震災に関しては、大船渡で津波被害の写真の修復にあたった金野さんをとりあげた「思い出をレスキューせよ！被災地の紙本・書籍保存修復士」。

福島県飯舘村の農家で、放射能被害にも負けずに、「いいたて雪っ娘」というかぼちゃを繋いでいくために奮闘した、渡辺さんを取りあげた「あきらめないことにしたの」。

岩手県の三陸鉄道が、津波被害から立ち上がり、震災を伝える取り組みに挑戦する姿をとりあげた「きずなを結ぶ震災学習列車―三陸鉄道、未来へ」。

塩釜市で被災後、全国から集まった絵本で家庭文庫を開いた長谷川さ

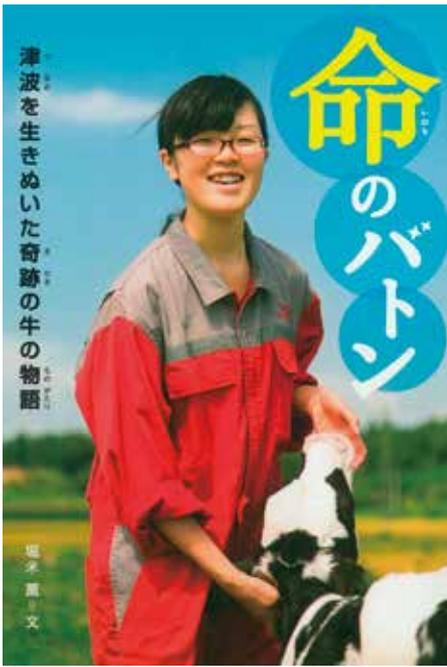
んをとりあげた「うみべの文庫―絵本がつなぐ物語」があります。本にまとめることで、当時の記憶をしっかりと残し、次代へと伝えたい。そんな願いで、夢中で書き続けてきました。

震災から十年がたち、記憶が薄れていることが懸念されていますね。現在小学四年生以下の子は、震災を直接経験していない世代になります。これから生きる子どもたちに、震災を語り継いでいくことは、私たち大人にとって、いっそう大事な役目になると思います。

これらの児童書が、あの時何を感じ、どう行動したのかを、お子さんやお孫さんにお話をするきっかけになれば幸いです。

最後に
「すきとほった
ほんとうのたべもの」

今回の講演のタイトルは、「すきとほったほんたうのたべもの」をさがして」でした。旧式の表記なので、わかりづらいですが「透き通った本当の食べ物」ということです。



「命のバトン」 堀米薫作 佼成出版社

私は、宮沢賢治の母校の盛岡高等農林、現在の岩手大学で学びました。学生時代は、岩手山を臨みながら、詩集の「春と修羅」を読んではみたものの、当時は、賢治がいったい何を言っているのかさっぱりわかりませんでした。

それが、実際に農業に携わり、自然を相手に生活するようになると、賢治の世界がとても近く感じられるようになったのです。中でも、短編集、『注文の多い料理店』の序文を何度も読み返すようになりました。

『注文の多い料理店』序文

宮沢賢治

わたしたちは、氷砂糖をほしいくらいたないでも、きれいにすきとおった風をたべ、桃もいろいろのうつくしい朝の日光をのむことができます。

またわたくしは、はたけや森の中で、ひどいぼろぼろのきものが、いちばんすばらしいびろうどや羅紗や、宝石いりのきものに、かわっているのをたびたび見ました。わたくしは、そういうきれいなたべものやきものをすきです。

これらのわたくしのおはなしは、

みんな林や野はらや鉄道線路やらで、虹や月あかりからもらったのです。

ほんとうに、かしわばやし青い夕方を、ひとりを通りかかったり、十一月の山の風のなかに、ふるえながら立ったりしますと、もうどうしてもこんな気がしてしかたないのです。ほんとうにもう、どうしてもこんなことがあるようでしたかたないということを、わたくしはそのとおり書いたまでです。

ですから、これらのなかには、あなたのためになるところもあるでしょうし、ただそれっきりのところもあるでしょうが、わたくしには、そのみわけがよくつきません。なんのことだか、わけのわからないところもあるでしょうが、そんなところは、わたくしにもまた、わけがわからないのです。

けれども、わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまい、あなたのすきとおったほんとうのたべものになることを、どんなにねがうかわかりません。

大正十二年十二月二十日

宮沢賢治

私は、農家に嫁ぎ、田んぼや畑で、様々なものに出会いました。月明かりの畑は、青白く染まって、光と彩にあふれる昼とは異世界のようです。雪が降った次の日に、放射冷却で空が晴れ上がると、あたりはダイヤモンドの粒をまき散らしたように、光に包まれます。春の風には、泥のにおい、花のにおい、芽生えたばかりの草のにおいがまじりあっていて、早く目覚めて農作業を急げとせかされていくような気持ちになります。

時々、野鼠やモグラ、キツネや野ウサギ、そして猪に出くわしてはドキリとすることもあります。農作業を終えて充実した気持ちの時は、賢治の言うとおり、泥にまみれた農作業着が誇らしく思えるときもあるんですよ。おかしいですね。

この序文を読むと、とても満ち足りた気持ちになります。一方で、よくわからないこともあります。すきとほったほんたうのたべものとは、いったい何なのだろう。いっしょうけんめいに目を凝らしたら、見えるのかな？

いったい、どこにあるんだろう……。

皆様は、すきとほったほんたうのたべものとは何のことか、わかりますか？

「もちろんわかるよ」という方も、たくさんいらっしやるでしょうね。でも、ここでは、答えを簡単に求めるのは、やめておきたいと思います。私は、これからも、すきとほったほんたうのたべものをさがしながら、どうしてもこんなことがあるようでしたかたがないということを、書いていきたいと思っています。

これで、私のお話はおしまいです。ありがとうございました。

二〇二二年一月一日



近著「はくさいぼろぼろのきものがたり」
堀米薫ぶん 新日本出版社

堀米 薫 作品一覧

《単著》

- 2009 「牛太郎、ぼくもやったるぜ！」 佼成出版社
- 2011 「チョコレートと青い空」 そうえん社
児童文芸家協会新人賞 全国感想文コンクール課題図書 福島県高校入試問題採用
- 2011 「ぼくらは闘牛小学生！」 佼成出版社
- 2013 「林業少年」 新日本出版社
埼玉県、宮城県高校入試問題採用
- 2013 「命のバトン 津波を生き抜いた奇跡の牛の物語」 佼成出版社
緑陰図書 厚生労働省児童福祉文化財推薦図書
- 2014 「語り継ぎお話絵本 せんそうってなんだったの?『松なみ木はもどらない』 学研教育出版
- 2014 「思い出をレスキューせよ!“記憶をつなぐ”被災地の紙本・書籍保存修復士」 くもん出版
- 2014 「ゆめいっばいかがやくみらい おんなのこのでんきえほん」 西東社
- 2014 「モーモー村のおくりもの」 文研出版
緑陰図書
- 2014 「金色のキャベツ」 そうえん社
全国感想画コンクール課題図書
- 2015 「きずなを結ぶ震災学習列車 三陸鉄道、未来へ」 佼成出版社
- 2015 「あきらめないことにしたの」 新日本出版社
緑陰図書
- 2016 「仙台真田氏物語—幸村の遺志を守った娘、阿梅」 くもん出版
- 2017 「あぐり☆サイエンスクラブ 春 —まさかの田んぼクラブ?」 新日本出版社
神奈川県（定時制）&岩手県高校入試問題採用
- 2017 「あぐり☆サイエンスクラブ 夏 —夏合宿がやって来る!」 新日本出版社
- 2017 「あぐり☆サイエンスクラブ 秋と冬その先に」 新日本出版社
- 2018 「ゆうなとスティービー」 ポプラ社
緑陰図書
- 2018 「めざせ、和牛日本—!」 くもん出版
- 2018 「うみべの文庫—絵本がつなぐ物語」 文研出版
- 2019 「みらいへはばたくおんなのこのでんきえほん」 西東社
- 2021 「青空モーオー!」 学研プラス
- 2021 「はくさいぼうやとねずみくん」 新日本出版社
- ### 《アンソロジー》
- 2018 「みちのく妖怪ツアー」 新日本出版社
- 2019 「みちのく妖怪ツアー 古民家編」 新日本出版社
- 2020 「みちのく妖怪ツアー ワークショップ編」 新日本出版社
- 2021 「みちのく妖怪ツアー オンラインゲーム編」 新日本出版社